

ミステリーツアー東北 2020



2020年12月

旅のチカラ研究所 植木圭二

ミステリーツアーに妻と行ってきた。東京駅集合・帰着で2泊3日ということだけ分かっていたが、あとは知らされていない。最近このようなミステリーツアーは人気があるので、事前に知らされているヒントも含めて紹介したい。

■出発前にもめている

集合時間の朝7時50分に間に合うように東京駅の集合場所に行くと、添乗員ともめているお客がいる。

近くで話を聞いているとの提出した健康チェックシートの内容で発熱があったとか問題があるようで、添乗員は会社の上司と電話で話している。どうやら上司からの指示はツアー参加をお断りしろというものらしいが、本人は行きたそうでなかなか引き下がらない。それはそうだろう、行けると思ったのでわざわざ早起きして来て、少なくとも現在は元気そうに見える。この両方で問答を繰り返していても埒が明かないので、添乗員はお客と上司を直接話し合わせようとお客の携帯電話に上司から電話をかけてもらい、添乗員は受付を始めた。

受付している間もあのお客は携帯電話で話している。そして時々大きな声を上げる場面もあったが、とうとう出発の時刻になってしまい、私たち残りの参加者たちは新幹線ホームに移動することになった。あのお客はいつまでも上司に食い下がっていた。

それにしてもあのお客のキャンセル料金はどうなるのだろうかなどと、私たち夫婦は余計な心配をしている。

■いよいよ始まるミステリーツアー

私たちが乗る新幹線は東北新幹線、降りる駅は新白河だと初めて教えてもらって改札を抜けていく。この“抜けていく”という表現を使った理由は、添乗員に先導されて改札の脇の格子の低い扉から入った。席だけ知らされており、切符を持たないまま新幹線に乗った。切符無しで電車に乗るという初めての経験になる。

新幹線はグリーン車なので至って快適だ。1時間20分ほどで新白河駅に到着して、待っていた地元の観光バスに乗り込む。バスの座席表は当日不参加になった1席だけが既に塗りつぶされている。その結果、参加者の人数は23名になった。

添乗員が挨拶をして一般的な注意事項を説明するが、決してこれからの行先は教えてくれない。

バスは 10 分程走ると「日本 100 名城の一つ」というヒントの白河市内の白河小峰城に到着する。私は初めて訪れる城だ。なかなか立派な石垣があつて、残念ながら天守閣はない。三重櫓だけが復元されているが、見方によっては天守閣のようにも見える立派な三重櫓で、天守閣があつたならばさぞかし凄い城だったに違いない。



<白河小峰城 三重櫓>

ミステリーツアーではあまり知られていない観光地を訪れることが多い。いわば B 級観光地めぐりの旅になるので新発見もそれなりにあるから面白い。

それがミステリーツアーのひとつの魅力で、国内各地を歩き尽くした人たちも飽きさせない。

■大きな湖と名物の昼食

次に立ち寄る観光地は「日本で 5 位以内の広さを誇る湖」というヒントだったが、白河の近くで大きな湖といえば猪苗代湖しかない。それにパンフレットの写真には会津磐梯山が写っていたので、私はツアー出発前から福島県だと分かっていた。

雪が降っており、その会津磐梯山は雪雲や降る雪によって全く見えない。

トイレ休憩で外に出ると気温は -3°C を示している。白鳥の飛来地としても有名な湖なので白鳥も多く飛来している。その白鳥を模した大きな白鳥の形をした遊覧船さえも寒そうに見える。

昼食は「○○○飯発祥の店で昼食」というヒントだが、私には何となくこの○○○に入る文字が分かった。

会津若松市の市街地にバスが入ってきて、郷土料理屋「田季野」に着いた。この店がここ会津地方の郷土料理「ワッパ飯」発祥の店だという。ワッパと呼ばれる薄い木の板を丸く円柱状にした入れ物にご飯の入れ、その上に鮭の切り身やキノコを乗せて蒸した料理で、温かく柔らかいので食べ易い。

実は同じような容器を使う“ワッパ煮”というのを隣県の新潟県の日本海に浮かぶ粟島で食べたことがある。それは魚貝類や野菜を入れた味噌仕立ての汁をワッパに入れて、その中に熱した石を投入してブクブクと勢いよく泡が沸き上がるというとても豪快な料理だ。

隣県なので似たようなものが生まれたのだろう。しかしながら味もインパクトもワッパ煮の方に私は軍配を上げる。



<会津地方の郷土料理 ワッパ飯>

■最初の宿泊

バスは喜多方の道の駅に立ち寄る。ここから約1時間半で本日宿泊する温泉に着くと添乗員は言うが、それでは山形県に入ってしまう。ヒントでは〇〇〇〇〇温泉とあったので、てっきり猪苗代湖付近で時間を潰して東山温泉にでも泊まるのかと思っていたが、そうは問屋が下ろさないようだ。

道の駅で面白い財布を買う。千円札の野口英世がデザインされた財布だ。それと会津牛の激辛カレーと喜多方ラーメンと併せて2000円ちょうどになる。最近はGoToトラベルキャンペーン（以下GOTO）の地域クーポンを頻繁に使っているのので、端数を少なくするのに慣れてきた。このクーポンはお釣りが出ないからだ。

長いトンネルを抜けて山形県に入った。雪が凄まじく降っている。一昨日から日本海側で大雪のニュースが報じられているが、その影響かもしれない。しかしながら運転手は地元の人なので、雪道は慣れており結構なスピードで飛ばしている。

バスはかみのやま温泉に来た。確かに〇〇〇〇〇温泉は、かみのやま温泉で、ひらがなでひがしやま温泉とは言わない。私の予想では山形県のこんなところまで来るとは思ってもみなかった。

温泉街の真ん中にある旅館「あづま屋」に着いた。この宿は大きなビル一棟の温泉旅館だ。入口には「果実の山 あづま屋」という看板が出ていたので、私が近くに居た支配人に「この文字は本当？確か昔は“上の山”と書いていましたよね」と質問すると、彼は少し慌てたように「これは当館だけの当て字です」と釈明している。

宿に着いたのは夕方4時過ぎ、温泉を楽しむ時間はたっぷりある。

最上階の7階に大浴場があり、露天風呂もサウナも付いている。早速タオル片手に大浴場に行ってみる。コンクリートのビルの中の風呂なので風情はない。熱い湯と温い湯があつてその点は評価できる。露天風呂は狭いベランダに苦労して作った感じで景色は見えない。サウナは温度がやや低く、なかなか発汗しない。水風呂は私好みのいい温度になっているだけにもったいない。備え付けの砂時計は壊れており、天井には漏水のシミが大きく残っている。

この宿は建設当時相当立派だったのだろうが、サウナに限らず部屋やトイレでは壊れた部分の補修などが行き届いていない部分が多い。木造建築なら使い込んでいくとそれなりの味わいがでるが、もったいない。

料理は肉尽くしだ。それはブランド牛「米沢牛」を使ったもので、牛肉の寿司、牛肉と野菜のセイロの蒸し物、ローストビーフという豪華なものだ。山形名物の芋煮もあって、内陸の温泉地としては内容的には満足できる。

芋煮を運んでくれた外国人従業員に出身国を訊ねるネパールだと答えてくれた。ひと昔前は東南アジア諸国の人たちが多かったが、最近はネパール人も多くなっている。

■2日目の午前中

翌朝再びバスに乗り込む。高速道路を走行し天童ICで降り「将棋むら」にやってくる。

雪がかなり降っており、私たちにとってはもはや吹雪というレベルになっている。買い物やトイレ休憩が終わった頃には雪はさらに激しくなっており、駐車場まで歩いて戻る30m程の道のりなのに雪で服も帽子も真っ白になる。

ところが私たちのバスを見送りのために3人の若い女性店員が吹雪の中で花笠音頭を踊ってくれている。これには驚き、正直心を打たれた。



<見送りの女性店員による花笠音頭>

雪はさらに降ってきた。

次の場所のヒントは「1100年以上の歴史を持つ〇〇寺」となっている。かみのやま温泉に泊まって、将棋の街の天童、そして寺といえば山寺の立石寺しかない。立石寺は山の斜面に作られた寺で創建は西暦850年頃というから1100年以上の歴史という表現は合っている。

雪がなければ一番上のお堂まで 1200 段の石段を登るのだが、この雪ではそれは無理なので入り口近くにある根本中堂までいくことになった。そこまでならば 30 段ほどの階段なので、添乗員は「私に続いて下さい」と先導してくれるが、残念ながらその 30 段も雪で登れずに引き返した。添乗員にして、こんなことは初めてだと言っている。



<根本中堂に登る階段>

■私も絶句

バスは再び高速道路を走っている。次の目的地のヒントは「〇〇も絶句したほど素晴らしい景観」となっている。バスはなんと宮城県の松島までやってきた。

松尾芭蕉が絶句した松島、私はまさか松島まで来るとは思わなかったので私も絶句した。確かに高速道路を使えば山寺から 2 時間もかからない。

添乗員が松島湾の遊覧船に乗る人を募っている。オプションで別費用がかかるというが、雪景色の松島は滅多にみられないから大変お勧めだと言っている。1 人 1000 円、GOTO の地域クーポンが使えるというので参加者全員が乗ることになった。私は松島には何回も来ているが、雪景色の松島を船から見るのは初めてだ。

乗った遊覧船は 100 人くらい乗れる比較的大きな船で阪急交通社がチャーターしたものだ。船長自らがマイクを握ってガイドをしてくれる。

遊覧船から見る雪の松島は素晴らしい。

松島は 260 余りの島があるという。わざわざ“余り”と言った理由を、船長は潮の満ち引きで島の数が変わるからだと言明してくれる。

他にも数々の島の名前や由来を説明してもらおうが、船長の説明は私の頭の中を通り抜けていくだけになった。それは雪の松島の景色があまりに素晴らしいからだ。

遊覧船を降りて、再集合までは時間があるので雪の瑞巖寺を訪れてみる。

瑞巖寺は平安時代初期に創設され、平泉の奥州藤原家や伊達政宗らによって庇護を受け、伊達家の菩提寺になっている。入口には国宝と書かれている。境内に入ると右手に洞窟を掘った霊場が並んでいる。その前には西国三十三観音霊場の礼拝が 33 の碑が建っている。ここに来て西国三十三と言われてもピンとこないが、この寺のルーツは比叡山延暦寺だからかもしれない。

雪景色の瑞巖寺は実に風情があって良い。



<松島>



<瑞巖寺の境内>

遊覧船を降りて昼食は自由に食べることになっている。松島周辺には多くの食堂や土産物屋が軒を連ねており、GOTO の地域クーポンはほとんどの店で使える。私と妻は牡蠣料理の店を選んだ。生牡蠣、焼き牡蠣、牡蠣うどん、牡蠣そば、生ビールを注文したら蒸し牡蠣がサービスで出てきた。

昼食後の集合場所になっている「松島さかな市場」には焼き牡蠣食べ放題 45 分 2300 円という看板があり、多くの若者たちが美味そうに食べていた。

■2 泊目の宿

松島を出ると、もう今宵の宿に向かうという。ミステリーツアーも雪で予定変更を余儀なくされているようだ。私に取ってはむしろありがたい。この吹雪の中を外に出て観光するよりも早めに宿に入って温泉に入って一杯やりたい。

今宵の宿は高級旅館で「プロが選ぶ日本のホテル・旅館 100 選で全部門受賞の宿」というヒントで、阪急交通社では最高級の S ランクの宿だという。ならばなおさら早く着いてゆっくりしたいのは私だけでないだろう。

その S ランクの宿に着いた。福島県の飯坂温泉の奥にある穴原温泉の高級旅館「吉川屋」という大きな宿だ。私にとっては初めての温泉地、もちろん初めての宿になる。従って予想も何もできなかった。

ちょうど私たちがチェックインしようとした時に、この旅館で開催されていたカラオケの全国大会が終了した。その参加者たちが宿を出るとかち合って大賑わいになっている。宿の中に入ると豪華絢爛というよりも気品を感じられる。廊下には天皇や皇族たちが宿泊し、将棋や囲碁のタイトル戦の対局会場になった写真も飾ってあるから、相当に由緒正しい宿だ。

宿は溪流沿いであって、私たちが泊まる部屋の前には溪流そして対岸には崖がそびえている。その雪化粧した対岸の崖が部屋から綺麗に眺めることができる。

部屋の障子には雪見障子があつらえてあるから、そこを開けて部屋に居ながらにして風情ある雪見酒を楽しめる。客室に雪見障子のある宿は私もあまり経験がない。



<部屋の様子 雪見障子を開けている>

風呂は大きい。露天風呂もあって雪見の露天風呂が楽しめる。ケチの付け所がないというのが感想ではあるが、唯一ケチをつけるならばサウナがあるのに水風呂がないことだろう。サウナ愛好家ならば必ずがっかりするだろう。

ホテルの格からして食事は美味いに決まっている。これと言った特徴はないものの全体的にバランスが良く、これもまたケチをつけるところがない。この宿はそれが特徴なのかもしれない。特別に凄いという部分はないが、ケチをつけるところがない。それは落ち着いて過ごすことができることを意味している。

プロが選ぶ日本のホテル・旅館 100 選で 5 部門全て 100 位以内の実力を見せつけられた。総合順位では 10 位、食事は 3 位だったと添乗員が教えてくれた。

■3 日目の朝

バスに乗ると添乗員のお詫びから始まった。大雪のために午前中に予定していた厄除けの中野不動尊に行けなくなった。バスが山道を登れないためだという。確かヒントでは「厄除けの日本三〇〇のひとつ」と書かれていた。〇〇には不動が入るようだ。

そのために本日の出発時間が 10 時と遅い時間になっていた。これはこれで私にはありがたい。S ランクの宿に少しでも長居したい。

次の目的地は「朝ドラで話題！○○○○記念館」というヒントだが、これは直ぐに分かってしまった。NHK の最近の朝ドラで福島と言えば古関裕而しかいない。福島市内にある記念館はとても立派で敷地内には大きな音楽堂も併設されている。

入場無料で大きな駐車場まである。記念館にも駐車場にも何人ものスタッフがいる。この運営費用はどこから出ているのだろうか。



<古関裕而記念館>

昼食会場に来る。ヒントは「○○○○○にて和洋折衷ランチ」だけだ。このヒントでは地元の人でも分からないだろう。やって来たのはクーラクーリアンテという結婚式場で、そもそも○○○○○では文字数が合わない。

新型コロナウイルス感染症で結婚式需要が激減したので、その救済のようなことを添乗員は言っている。

■最後は最もミステリー

次の目的地のヒントは「国重要文化財の風光明媚の景色のある寺」だと書かれているが、これではさすがに分からない。

バスは福島市から会津地方に再び戻って来て、会津若松市の西にある柳津（やないづ）町にやってくる。ここはアカベコ発祥の地だという。

それにしてもこの行程は本当にミステリーだ。わざわざ予測出来ないような行程を組んでいるとしか思えない。再び会津に来るとはとても信じられない。

やって来たのは「福満虚空蔵菩薩円蔵寺」で、国の重要文化財の寺になっており、本尊は弘法大師空海で只見川を見下ろす高台にある古い大きな寺だ。

私と妻は一週間前までその空海ゆかりの四国八十八霊場をお遍路で巡っていたので、とても親近感が湧く。

只見川を国道沿いに遡る。雪景色の只見川は風情がある。

JR 只見線の鉄橋を見下ろす絶景ポイントが最後のミステリースポットで、JR の列車が通過する時を狙って予定が組まれていたようだ。この場所のヒントは「担当者一押しビュースポット」だと言うがこのヒントで分かる人がいるのだろうか。添乗員の説明では紅葉の絶景ポイントで日本一になったことがあるという。

今回は紅葉ではないが、いい感じで雪景色になっている。その絶景ポイントには 15 分程かけて階段を登っていく。階段には雪が結構積もっている。

そして登り切ったが、まずは悲しいサプライズだ。雪の影響で只見線が運休しており先ほど再開したばかりだという。もはや電車は来ないと思って降り始めると、汽笛が聞こえる。今度は嬉しいサプライズだ。絶景ポイントから列車の通過している鉄橋を写真におさめる。



<JR 只見線の絶景ポイントからの全景>



<JR 只見線の鉄橋を渡る列車>

バスが駐車したのは道の駅の駐車場で、この田舎には信じられないほど立派な建物になっている。この絶景スポットのために作られたのだろう。

駐車場でバスの運転手と話をすることができ、11月から全て同じコースをほぼ毎週来ており今回で5回目だという。

駐車場には地元ナンバーの乗用車もあり、乗用車の中から「ミステリーツアーは面白いですか？」と声を掛けられた。私たちのバスのフロントガラスにはツアー名が書かれているからだろう。そして「昨日はどこに泊まったの?」、さらに「おとといは?」とミステリーツアーにとっても興味があるらしい。

また嬉しいサプライズがある。先ほどの道の駅で添乗員が買い込んでいた温かいお茶と松茸おにぎりが配られた。これから乗る新幹線の東京駅着が19時28分だからという配慮で、これはありがたい。

恐らくは添乗員にある程度の予算を預けて、添乗員の裁量で記念になるように予算を使うような指示が出ているのだろう。最近のバックツアーでは最後に抽選会などを開催することが多い。

18時05分、郡山駅から新幹線のグリーン車に乗ってミステリーツアーは終了した。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合っ各項目を5段階で評価し、委員会として評価値を算出する。

評価の基準は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

総合点(平均値)で5段階の75%、つまり3.75をオススメの目安としている。特に4.00を超えるには驚き感動が少なくとも1項目以上あるからオススメ度は高い。

かみのやま温泉「あづま屋」は泉質3、風呂4、料理4、コスパ、サービス3、建物・部屋4、立地環境3、総合点3.5になった。コスパは宿泊費がツアー料金に入っていて直接支払っていないので評価しなかった。

泉質はナトリウム・カルシウム-塩化物・硫酸塩泉、pHは7.6、湧出温度は62.8℃となっている。

穴原温泉「吉川屋」は泉質4、風呂5、料理4、コスパ、サービス4、建物・部屋4、立地環境4、総合点4.16になった。コスパは評価しなかった。

泉質は単純泉、pHは8.36、湧出温度は63.4℃となっている。

■旅の記録

実施は2020年12月19日(土)~21日(月)の3日間、その行程を以下に示す。

- ・1日目 7時50分東京駅集合、新幹線グリーン車に乗り9時48分新白河で下車、バスに乗り換えて白河小峰城、猪苗代湖、会津若松の料理屋「田季野」で昼食
かみのやま温泉「あづま屋」宿泊

- ・ 2日目 8時40分に宿を出発、山寺の立石寺、松島に行き遊覧船乗り、松島で昼食
奥飯坂の穴原温泉「吉川屋」に宿泊
- ・ 3日目 9時50分に宿を出発、(中野不動尊は雪のために断念)、福島市の古関裕而記念館
福島市の結婚式場「クーラクーリアンテ」で昼食、会津の福満虚空藏菩薩圓藏寺
道の駅「尾瀬街道みしま宿」と JR 只見線絶景スポット「第一只見川橋梁」、
18時05分郡山駅出発の新幹線グリーン車に乗り東京駅着、21時帰宅

総費用は2人で約10万円になった。これはGOTOの割引や地域クーポンを使用した結果の費用になっている。

- ・ 阪急交通社払い込み 77600円 (2人分、GOTOの35%適用後の金額)

※GOTOの地域クーポン18000円を入手

- ・ その他交通費 約1000円 (自宅から東京駅までの交通費往復2人分)

上記費用に入っていない食事や飲み物の合計が約20000円になったが、ほとんどGOTO地域クーポンを利用した。端数や利用できない店もあり実質の出費は約2000円になる。

- ・ 昼食 (1回2人分) 約3400円 (松島にて牡蠣、実質は400円)
- ・ 夕食 (1回2人分) 約1100円 (郡山駅で弁当や飲み物、実質は100円)
- ・ 土産物、飲み物等 約15500円 (実質は2000円)